子どもの成長を願い、鯉のぼりを染める

ゆうげんがいしゃ はた や なかしま や だいすけしょうてん
有限会社 旗屋中島屋代助商店
〒482-0042 岩倉市中本町中市場 31
TEL: 0587-37-0064
https://www.somemonya.jp

■会社概要

嘉永時代（1850年頃）から代々 松浦代助を世襲（せしゅう）する旗屋中島屋代助商店。

小学校に飾られている校旗や国旗、よさこいなどの時に着用する半纏（はんてん）、交通安全の手旗など、幅広く取り扱っていますが、特に手染めにこだわって幟（のぼり）を製作しています。

桜まつりの時には「のんぼり洗い」の実演も行っています。

受け継がれてきた「染め」、「鯉のぼり」という文化を教えてくれました。

昔ながらの染め方を引き継ぐ

染めの方法はたくさんあります。用途や枚数などによって変えるのですが、基本となるのは鯉のぼりの染め方「印染め」です。染色関係の学校がありますが、「染め」の全般的なことは教えてくれても、印染めを教えてくれません。そのため、職人はここに入ってイチから学んでいくことになります。代表の松浦さんも染色関係の学校に行った後、24歳でここに入り、印染めのことは先代から学びました。

昔は材料の種類が限られましたが、染物は手間暇をかけた、本当に良いものがつくられていました。また、手染めはいつも同じ染め方をしても、できあがりが微妙に違うため、世界に一つしかないという魅力と特別感があります。

鯉のぼりに込められた思い

鯉のぼりはその家に男の子が生まれたしるしです。浮世絵に見られる鯉のぼりは黒色のみの一匹で、また、黒や赤はあくまで「まごい・ひごい」を表すもので お父さんやお母さんを示しているわけではありませんでした。時代の流れの中で捉え方が変わってきました。矢車やふきながしも後からついたものだそうです。

松浦さんは「庭に建てるだけが鯉のぼりではない。小さくても、玄関先に少し飾るだけでも良いので、親が子の健やかな成長を願うという鯉のぼり文化を絶やしたくない」と、技だけではなく文化や風習も守り続けています。

鯉のぼりは、要望に応じて子どもの名前や家紋を入れたり、女の子用で配色を変える場合もあるそうです。

新しい挑戦 Tシャツや小物雑貨の製作

ここでは、のぼりのハギレなどを利用してポーチやトートバッグ、シュシュなどの小物づくりにも取り組んでいます。材料となるハギレは二つとして同じものがないため、小物はそれぞれオンリーワンの商品となります。

また、洋服製造会社と岩倉市のTシャツを製作しています。岩倉の産業振興に少しでも役に立てればと考えています。

「白い生地が染め上がって鯉のぼりになっていくのは小学校の図画工作のようで好きです。小さい頃から仕事場が遊び場でした。親から継げと言われたことはありません。いろいろ考えた時期もありましたが、最後はここだろうと思っていました」と語る松浦さん。

店の歴史に向き合い、日本の良き伝統をかたくなに守りながら、新しいことにも挑戦し続けています。